

年間授業計画

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科

地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史

科目：歴史総合

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～7組

使用教科書：（帝国書院 『明解歴史総合』）

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史的な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 歴史的な事象の意義や特色を、時期や年代など相互の関連や現在とのつながりなどを考察し説明する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会実現への課題を主体的に追究・解決する態度を養い、我が国への愛情や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
歴史の扉 【知識及び技能】 身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解し、絵画・文書資料・統計データなど歴史における資料の重要性と、事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 身の回りの事象と世界の歴史との結び付きについて考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 身の回りの事象と世界の歴史との結びつきに関する問いを主体的に追究する。	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料	【知識・技能】 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学校社会科における学習の成果を生かし、履修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。	○	○	○	
近代化へのはじまり 【知識及び技能】 18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する問いに対して、歴史的なもの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する問いを主体的に追究する。	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 1節 アジアの中の江戸幕府 2節 成熟する江戸社会 3節 清の繁栄と結び付く東アジア 4節 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	【知識・技能】 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解している。 【思考・判断・表現】 18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 前近代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。	○	○	○	
定期考査			○	○		
欧米の市民革命と国民国家の形成 【知識及び技能】 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いに対して、歴史的なもの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いを主体的に追究する。	2章 欧米諸国における近代化 1節 イギリスの革命とアメリカの独立 2節 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け 3節 フランス革命の影響と国民意識の芽生え 4節 産業革命で変わる社会 5節 イギリスの繁栄と国際分業体制 3章 近代化の進展と国民国家の形成 1節 1848年～近代ヨーロッパの転換点 2節 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 3節 アメリカの拡大と第2次産業革命 4節 帝国主義と世界の一体化	【知識・技能】 産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。	○	○	○	
定期考査			○	○		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	近代化が進む日本と東アジア 【知識及び技能】 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する基本的な知識を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対する問いに対して主体的に追究する。	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 1節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 2節 南・東南アジアの植民地化 3節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4節 黒船の来航と日本の対応 5節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 5章 近代化が進む日本と東アジア 1節 清政府の誕生 2節 近代国家を目指す日本 3節 日本と清の近代化と日清戦争 4節 列強の中国進出と日露戦争 5節 日露戦争が与えた影響	【知識・技能】 日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。				
	第一次世界大戦と国際協調 【知識及び技能】 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する基本的な知識を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対して主体的に追究する。	3部 国際秩序の変化や大衆社会と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 1節 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2節 総力戦となった第一次世界大戦 3節 ロシア革命と大戦の終結 2章 国際協調と大衆社会の広がり 1節 ヴェルサイユ体制の成立 2節 東アジアの民族自決の行方 3節 中東・インドの民族自決の影響 4節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6節 日本における大衆社会の形成	【知識・技能】 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。また、大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 【思考・判断・表現】 ・第一次世界大戦の推移、世界に与えた影響、性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。また、第一次世界大戦前後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。				
	定期考査				○	○	
	第二次世界大戦と再出発する日本 【知識及び技能】 世界恐慌をきっかけとした世界各國の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する基本的な知識を理解させ、複数の史・資料を活用させる。 【思考力、判断力、表現力等】 世界恐慌をきっかけとした世界各國の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 世界恐慌をきっかけとした世界各國の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いを主体的に追究する。	3章 日本の行方と第二次世界大戦 1節 世界恐慌が与えた影響 2節 ファシズムの台頭と拡大 3節 政党政治の断絶と満州事変 4節 日中戦争の始まり 5節 第二次世界大戦の展開 6節 戦局の悪化と被害の拡大 7節 第二次世界大戦の終結とその惨禍 4章 再出発する世界と日本 1節 戦後の新たな国際秩序 2節 冷戦の始まり 3節 日本の撤退後の東アジア 4節 日本の改革と独立の回復	【知識・技能】 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を捉え、第二次世界大戦の展開や第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考・判断・表現】 各國の世界恐慌への対応の特徴や第二次世界大戦の推移、性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。				
	定期考査			○	○		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	<p>冷戦で揺れる世界と第三勢力</p> <p>【知識及び技能】 冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する基本的な知識を理解させ、複数の史・資料を活用させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対して、主体的に追究する。</p>	<p>4部 グローバル化と私たち</p> <p>1章 冷戦で揺れる世界と日本</p> <p>1節 アメリカ・ソ連の緊張と緩和</p> <p>2節 冷戦下における日本の復興</p> <p>3節 第三勢力の形成と脱植民地化</p> <p>4節 中東戦争とパレスチナ問題</p>	<p>【知識・技能】 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 1950～1970年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。</p>	○	○	○	
	<p>多極化する世界</p> <p>【知識及び技能】 石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する基本的な知識を理解させ、複数の史・資料を活用させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いを主体的に追究する。</p>	<p>2章 多極化する世界</p> <p>1節 揺らぐアメリカと先進各国の変化</p> <p>2節 「経済大国」日本の模索</p> <p>3節 経済発展に取り組むアジア・南米諸国</p> <p>4節 イスラーム復興と冷戦への影響</p>	<p>【知識・技能】 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・1970～80年代の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。</p>	○	○	○	
	<p>グローバル化のなかの世界と日本</p> <p>【知識及び技能】 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する基本的な知識を理解させ、複数の史・資料を活用させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現させる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する問いを主体的に追究する。</p>	<p>3章 グローバル化のなかの世界と日本</p> <p>1節 冷戦終結と変わる世界構造</p> <p>2節 冷戦の終結が与えた世界への影響</p> <p>3節 超大国アメリカと中東情勢</p> <p>4節 国際環境の変化と日本</p> <p>5節 グローバル化による国際社会の変容</p>	<p>【知識・技能】 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 冷戦後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。</p>	○	○	○	合計
	定期考査			○	○		0